

《豊丘村》豊丘村ボランティアセンター

〔センターの基本事項〕

所在地	〒399-3202 下伊那郡豊丘村大字神稲9083		
電話 F A X	0265-35-3327	0265-35-3327	
電子メール	—		
H P アドレス	—		
職員数	正規	—	嘱託 1名
	臨時	—	その他 —
開所日と時間	平日 8:30～17:30 土日祝を除く		
情報誌	ボランティアセンターだより		
	3ヶ月に1回（年4回）発行		
来所者数	年間 80名		



センターが入る豊丘村勤労者福祉センター

〔センターの運営方針・指針等〕

--	--

〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	ボランティア研修室・サロンー無料、対象者：豊丘村村民 調理室・他会議室ー無料、対象者：ボランティア登録団体・個人・福祉団体
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	テーブル・お茶・テレビ・情報誌・絵本・児童書
資機材等の貸出	—	
福祉体験器具等の貸出	—	
登録グループの専用ポストの設置	—	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	休会	規約	作成予定
名称	—		
平成23年3月に設立準備を進めていたが、東日本大震災による南相馬市被災住民の方々が村内に避難された。病院送迎等の対応で中断せざる得なかった為、平成23年度中には設立の予定で考えています。			
委員構成	10名		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
—			
協議会構成	—		
工夫点	—		
課題点	—		

〔財源〕

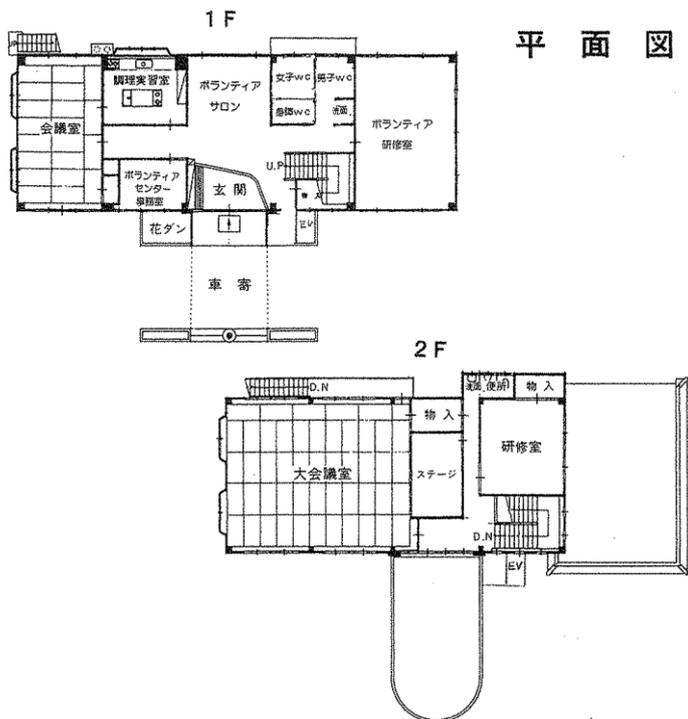
人件費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	—	—
	社協会費				
	村補助金				
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

事業費	独自財源	共同募金	委託料・補助金	民間助成金	その他
	<input type="radio"/>	—	<input type="radio"/>	—	—
	社協会費収入				
	豊丘村住民課委託料・補助金				
	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—

〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等はありませんか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
<p>《強み》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町村とのネットワークを活かした活動の展開が出来る。 ・社協内の他業種（ケアマネ、ヘルパー、デイサービス等）や行政関連との情報交換や連携がし易い。 ・ボランティアセンターが村の福祉施設内に入っていること。 	<p>《弱み》</p>

○VC見取り図



<p>○他市町村社協ボランティアセンターについて センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間事業計画作成時に留意していることや考慮すべき点があれば教えてください。 ・地域のニーズをどのような方法で把握し、どのように対処していますか。 ・『大震災発生時には近隣市町村社協の連携がとれる強みがある』と言われていますが、具体的にどのような方法で、どのように連携を取るのか。ブロック単位での訓練は必要なのか。ボランティアセンターの役割とは。 ・身近な地域で効果的な減災方法をされているセンターの活動を知りたい。

ボランティアセンターの重点事業について

事業名	障害者支援事業
目的	誰でも気軽に立ち寄ることが出来るスペースとして、日頃は他施設を利用することの少ない障害者の方々が安全にマイペースで自分らしく過ごす事が出来る場所を提供し、料理実習・ボランティアと共に体操なども行い、障害者の活動場所を広げる支援を目的とする。
開催頻度	
内容	<p>①外出活動時の昼休憩所 『以前は外出してもトイレの時間など心配し、十分な休憩時間も取れず、次第に行動範囲が狭くなり、早めに施設に戻る傾向あり』との話を伺い、安全に過ごせる場所、休憩で利用して頂く。</p> <p>②作品展 ボランティア研修室を作品展示場に。ギャラリースペースに大変身。</p> <p>③料理実習 センター調理室で第1回の料理体験（献立は自分たちで考える）</p> <p>④健康体操（レク） センター大広間でボランティアさん達とレクレーション体操をする。</p>
対象者	村内在住の障害者及び施設の利用者
企画のポイント 事業成果	ボランティアセンターで個人展を希望する方が増えた。 障害者の方々がセンターへ来ることを楽しみにされ、次の活動を積極的に考えられている。
参加者の声や その後の動き など	料理実習は次回の献立も決まり、定期的に行われる予定。

事業の様子

①



③



②



④

